

「津山市における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に関する意見書を提出しました。

私たちの会は今日社会問題になっている「引きこもり問題」に焦点を合わせて活動している。ところがこの要領案には「引きこもり」という言葉が33ページ下から3行目にたった一回だけ出ているだけである。ということは津山市では「引きこもり」は社会問題として捉えられていないということになる。行政の方からよく「引きこもりに特化した問題」という言葉を耳にするが、引きこもりは個々別々で千差万別で特化できる問題ではない。むしろあらゆる障害者に共通する特徴であり、身体障害者も知的障害者も精神障害者も支援なしには引きこもらざるを得ない。「要領案」にもあるように障害者も千差万別であり、本人に相応した支援が必要である。だから今引きこもっている人は支援する方策が見つからないから引きこもっているのである。

とすれば、障害者も引きこもりもそれぞれが個性を持っているのであり、健常者と区別するのではなく、それぞれの個性を最大限発揮する方策をその個人に合わせて見つけ出す方策を皆で求めていくことが肝要であろう。これが共に皆で育て合う教育の根幹である。

私たちの会は赤ちゃんからお年寄りまで孤立しがちな方たちが気楽に立ち寄れる居場所を提供して、みんなで助け合う社会を目指してきた。不登校も認知症もDVも自殺や社会的犯罪も支援の在り方に問題があると言わざるを得ない。地域の公会堂や公民館も単なる趣味の広場に留まらず、最大限利用して、孤立しがちな人々を支援して、お互いに育て合う場であってほしい。そうすることが支援を充実していくことに繋がっていく。

それは人を出し抜いて競争に勝つことではなく、それぞれの個性が最大限発揮されることを共に願う地球の・人類の願いであり、大地への祈りである。そのことが社会の矛盾・存在の矛盾を解決することに繋がっていくであろう。(全文)

## 「トトロ・サロン」大盛況でした

6月25日 「トトロ・サロン」を開きました。3月31日のカタクリの花を見る会の後2回目となります。会の目指す赤ちゃんからお年寄りまで25の方が参加されました。昼食は、中華風冷やしそばにデザート、トトロケーキとスタッフの料理が光りました。赤堀さんと友人の本格的な舞踊を楽しみ、初対面の方々ともすぐに仲良くなりました。笑顔が広がる楽しい時間となりました。「サロン・トトロの家」は、医療生協東部支部のサロン活動の1つとして、これからも共催しながら地域福祉の居場所拠点として活動を広げていきたいと思っております。子どもたちは、笑顔の源です。お孫さんやその家族のご参加を歓迎します。次回は、8月27日そうめん流しの予定です。今から計画してくださいね。



ごちそうさま

## そーめん流し（8月27日土曜日）

皆様のご協力でもっとも楽しい、にぎやかな行事にしたいですね！

